



駒本の力

駒本小学校（家）

教育活動紹介便り

NO. 37

平成 28 年 12 月 22 日

二学期ありがとうございました

校長 田中 克昌

今日で4ヶ月間に及ぶ、2学期が終了しました。各担任から一人一人の子どもたちに2学期の努力や成果を褒め励ましながら、通知表を渡しました。2学期は運動会、学習発表会（駒本フェスティバル・駒本コンサート）と大きな行事があり、それぞれの行事を通して子どもたちは、大きく成長しました。特に、駒本フェスティバルでは、「自ら学び伝える力」の高まりがありました。児童が主体的に追究したい課題を設定し、様々な方法で調べ、次へのアクションを行い、学習成果や自分たちの意見や考えを相手に分かりやすく工夫して発表することに努力しました。各行事の実施において、保護者の皆様のご協力とご支援をいただいたこと感謝しております。また、各行事でのご感想やご意見、学校の教育活動に関する保護者アンケートをお寄せいただきましたことも感謝申し上げます。いただいたご意見は、校内の学校評価を通して、今後さらに子どもたちの成長を促していける教育活動の計画・実施に向けて資料として活用させていただき、改善できる点については、確実に実施してまいりたいと考えております。

この冬休みは、子どもたちが家族の一員として年末・年始の行事に参加し、家族ならではの冬休みを過ごし、家庭で育める自尊感情や自己肯定感を高めていただけることを切にお願いいたします。事故や怪我無く、1月10日の始業式に全員が笑顔で揃うことを願っています。本年の学校の教育活動に対しまして、ご理解・ご支援をいただきましたことを改めて感謝申し上げますと共に、皆様にとって平成29年が良き年となりますことを祈念しております。皆様どうぞ良いお年をお迎えくださいませ。

日本の伝統芸能に学ぶ！

12月には、全校児童が2つの日本の伝統芸能に触れる機会がありました。一つは、12月5日に行われた、邦楽創造集団「オーラJ」による、邦楽器による伝説舞台「羽衣」の公演でした。「オーラJ」の公演は、文化庁主催による文化芸術による子どもの育成事業の巡回公演事業として行われたものです。昨年度、文化庁に申し込んだところ、本校の希望が叶った公演です。

邦楽創造集団「オーラJ」は、日本の様々な伝統楽器で新しい音楽作品を創り出す団体で、日本国内だけではなく国際的にも活動している団体です。当日は、邦楽器の紹介が行われ、その上で邦楽器による伝説舞台「羽衣」の公演がありました。笛、笙、尺八、箏、三味線、小鼓、琵琶と歌で構成された、羽衣伝説の舞台は、邦楽器の表現力の豊かさや高さに圧倒されました。人の心の細かなところまでを表現する邦楽器のすばらしさは、本当に目から鱗が落ちるような体験と感動を与えてくれました。全校児童が真剣

に聞き入る姿から、子どもたち一人一人も邦楽器の表現力のすばらしさを体感したことを思います。

二つ目は、12月15日に行われた、太鼓芸能集団「鼓童」による和太鼓の公演でした。「鼓童」の公演は、文京アカデミー主催による鼓童交流学校公演として、これも今年度申し込んだところ、本校での公演が実現したものです。

鼓童は、日本の太鼓の演奏を中心とした舞台で、日本や世界各地を公演しながら旅をしている太鼓芸能集団です。日本海にある島・新潟県の佐渡島に鼓童が活動する本拠地「鼓童村」があり、そこで伝統的な音楽や芸能をもとにした音楽や踊りなどを創っています。

当日は、7名の鼓童のメンバーが来てくださり、太鼓体験コーナーも交えながら、8曲の演奏を披露してくれました。メンバーの皆さんは、できるだけ近い距離で本物の音を届けたい、和太鼓や和楽器の楽しさを感じてもらいたい、という願いをもたれています。その願い通り、体育館の床や壁はもちろん、身体まで振動する大小様々な太鼓の響きは、子どもたち一人一人の心に届き、鼓童のみなさんの演奏から、元気や勇気、自信や希望というエネルギーをたくさんいただくことができました。一つ一つの演奏は、これも目から鱗が落ちるような圧巻と感動の連続でした。

このように、今月は2つの邦楽集団の演奏に直に触れることができた12月となりました。東京都では、2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて、全ての学校においてオリンピック・パラリンピック教育を推進しています。他国の文化を知る国際理解も大切ですが、母国である日本の歴史や伝統を学び、自国への理解をすすめていくこともとても大切な学習の内容となっています。オリンピック・パラリンピック教育は2020年の大会まで実施されていきます。今後も「駒本の力」を通して、本校での取り組みを紹介していきます。

